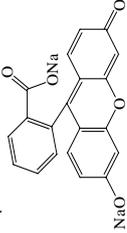
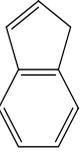
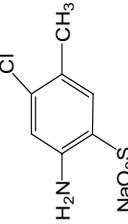
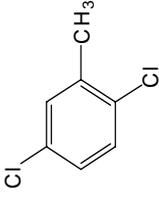
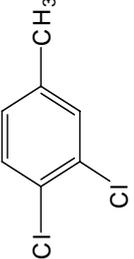
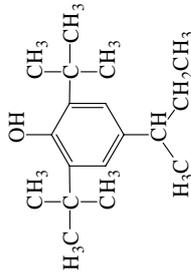


平成20年7月 既存化学物質点検 (分解・蓄積) 結果資料 (第77回審査部会)

資料2-1

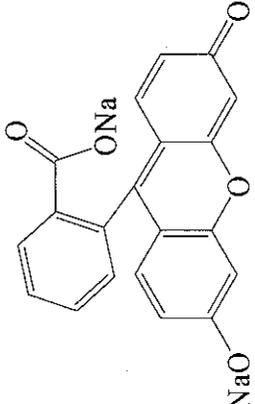
K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定案 (0)内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1825	ジナトリウム=2-(6-オキシンド-3-オキソ-3H-キサンテン-9-イル)-ベンゾアート (518-47-8) 5-673 5-1416 	BOD: -2, 0, 1 (0)*1 TOC: 0, 1, 1 (0) HPLC: 1, 1, 1 (1)	有機物質の塩であるため測定不可 -0.67*2	1区: 0.27倍以下 2区: 2.7倍以下 脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14%	難分解性 高濃縮性ではない	なし	1
1827	[(2-メチルフェノキシ)メチル]オキシラン (2210-79-9) 3-0574 	BOD: -3, -3, -2 (0)*1 TOC: 2, 3, 1 (2) HPLC: 91, 91, 90 (90) 被験物質の大部分が加水分解して、3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオールを生成し、残留した。	2.28 (フラスコ振とう法) 2.16*2	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性ではない	なし	4
1828	1H-インデン (95-13-6) 4-0580 	BOD: -6, -6, -4 (0)*1 HPLC: 0, 1, 1 (1)	3.02 (フラスコ振とう法) 3.25*2	分配係数から類推	難分解性 高濃縮性ではない	なし	7
143B	4-アミノ-2-クロロトルエン-5-スルホン酸ナトリウム (6627-59-4) 3-2024 	審議済 (難分解性) (平成19年10月26日) BOD: 0, 0, 2 (1) HPLC: -2, -1, -1 (0)	-	1区: <3倍 2区: <24倍 脂質含有率 開始前 8.2% 終了後 7.0%	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	10
1201C	2,5-ジクロロトルエン (19398-61-9) 3-0078 	審議済 (難分解性) (平成19年10月26日) BOD: 0, 0 (0) GC: -2, -5 (0) Closed bottle法	3.83*2	1区: 1190倍 2区: 1160倍 脂質含有率 開始前 5.6% 終了後 6.0%	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	12
1201D	3,4-ジクロロトルエン (95-75-0) 3-0078 	審議済 (難分解性) (平成19年10月26日) BOD: 0, 0 (0) GC: -3, 1 (1) Closed bottle法	3.83*2	1区: 1100倍 2区: 866倍 脂質含有率 開始前 6.1% 終了後 6.6%	(難分解性) 高濃縮性ではない	なし	15

K番号	物質名 (CAS No.) [PRTR番号] 官報公示整理番号	分解度(%)	分配係数 (log Pow)	濃縮倍率	判定案 0内は既判定	後続の試験案 (試験の種類, 試験物質)	頁
1760	2, 6-ジ-tert-ブチル-4-sec-ブチルフェノール (17540-75-9) 3-0540 	審議済(難分解性) (平成18年7月21日) BOD: -1, -1, -1 (0)*1 HPLC: 3, 2, 1 (2) 被験物質の一部が試験液から 炭酸ガス吸収剤に移行した。	6.43*2	1区: 32000倍 2区: 33000倍 脂質含有率 4.16% 開始前 5.34% 終了後	(難分解性) 高濃縮性	なし	18

\*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

\*2 Kowwin v1.67 SRC-LOGKOW for Microsoft Windowsによる計算値

\*3 フラスコ振とう法による予備値

整理番号 K-1825 (5-673、5-1416)	事業対象年度 平成19年度 試験期間 19.10.3~20.2.1	分解度試験	契約 年月日 試験期間 . . . ~ . . .	分解度試験	契約 年月日 試験期間 . . . ~ . . .
ジナトリウム2-(6-オキシンド-3-オキシンド-3#キサンテン-9-イル)-ベンゾアト [別名 アシッド エロー-73] (518-47-8)	試験装置 (標) ・ 揮	分解度試験	試験装置 標 ・ 揮	分解度試験	試験装置 標 ・ 揮
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状	試験濃度 100 mg/L	分解度試験	試験濃度 mg/L	分解度試験	試験濃度 mg/L
 <p>分子式 <math>C_{20}H_{10}Na_2O_5</math> 分子量 376.27</p>	汚泥 30 mg/L	分解度試験	汚泥 mg/L	分解度試験	汚泥 mg/L
	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間	
純度*1 92.1%	BOD -2, 0, 1 (0)%	試験結果	試験結果	試験結果	
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 7.9%は不明	TOC 0, 1, 1 (0)%	試験結果	試験結果	試験結果	
外観 橙色粉末	HPLC 1, 1, 1 (1)%	試験結果	試験結果	試験結果	
溶解度 (対水, その他) 対水 300g/L以上(20°C) (フラスコ法) 対メタノール 10g/L以上	審査部会 第77回	審査部会 第77回	審査部会 第77回	審査部会 第77回	
融点 測定不可 (黒色に変化)	20年 7月25日開催	20年 7月25日開催	20年 7月25日開催	20年 7月25日開催	
沸点 測定不可 (黒色に変化)	判定	判定	判定	判定	
蒸気圧 $3.18 \times 10^{-5}$ Pa 以下 (気体流動法, 80°C)	備考	備考	備考	備考	
密度	1.回収率 (水+被験物質)系 98.4% (汚泥+被験物質)系 99.0%				
LD50	2.実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構				
IRチャートの有無 (有) ・ 無	3.特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	3.特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	3.特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	3.特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。	
用途					
生産量*2 (16年) 未公表					
試料 購入先 東京化成工業					
経済産業公報発表年月日					

\*1 HPLCによる。 \*2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

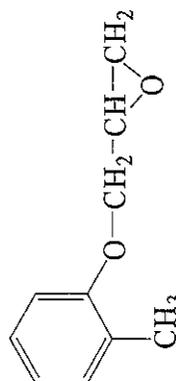
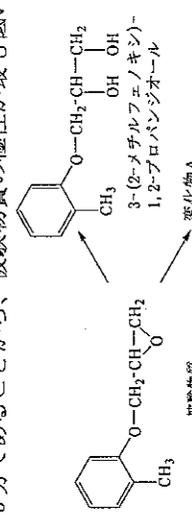


K-1825の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
3,3-ビス( <i>p</i> -ジメチル アミノフェニル)-6-ジ メチルアミノフタリド (1552-42-7)		5-0129 (K-1338)	標準(4W) 1997年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 0, 4, 0 (1)	難分解性 (1997)	1999年実施 5.27 (フラスコ脱脂)	>80.0 (48hr)	1999年実施 1区(50µg/L): 500~1300 2区(5µg/L): 636~1670 脂質含有率 4.1%	高濃縮性 ではない (1999)
2-(3-エチルイミノ オ-6-ジエチルアミノ- 3 <i>H</i> -キサンテン-9-イ ル)安息香酸=クロリド (3375-25-5)		5-1973 5-4056 (K-847)	標準(4W) 1987年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 3, 2, 0 (2) VIS(555nm) 8, 8, 5 (7)	難分解性 (1987)	1987年実施 1区(100µg/L): <0.2 2区(10µg/L): <1.7 脂質含有率 3.9%	33.9 (48hr)	1987年実施 1区(100µg/L): <0.2 2区(10µg/L): <1.7 脂質含有率 3.9%	高濃縮性 ではない (1987)
3',6'-ビス(ジエチル アミノ)-スピロ[イソ ベンゾフラン-1(3 <i>H</i> ), 9'-[9 <i>H</i> ]キサンテン]- 3-オン (509-34-2)		5-3090 (K-1762)	標準(4W) 2005年実施 BOD -3, -2, -2 (0)*1 TOC 2, 0, 3 (1) HPLC 1, 1, 1 (1)	難分解性 (2006)	6.63*2			
ジナトリウム=2-(6- オキシド-3-オキソ- 3 <i>H</i> -キサンテン-9- イル)-ベンゾア-ト (518-47-8)		5-1416 (K-1825)	標準(4W) 2008年実施 BOD -2, 0, 1 (0)*1 TOC 0, 1, 1 (1) HPLC 1, 1, 1 (1)		測定不可	>200 (96hr)	2008年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(0.46 mg/L): ≤0.27 2区(0.046mg/L): ≤2.7 脂質含有率 開始前 2.94% 終了後 4.14%	
3-( <i>N</i> -シクロヘキシ ル- <i>N</i> -メチルアミノ)- 6-メチル-7-アエリ ノフルオラン (55250-84-5)		5-3631 (K-1655)	標準(4W) 2003年実施 BOD -8, -6, -3 (0)*1 HPLC 0, 0, 0 (0)	難分解性 (2003)	8.60*2	>15.0 (96hr)	2005年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(10µg/L): 2400 2区(1µg/L): 2500 脂質含有率 開始前 2.58% 終了後 3.80%	高濃縮性 ではない (2005)

\*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。

\*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-1827 (3-0574)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
[(2-メチルフェノキシ)メチル]オキシラン	事業対象年度 平成19年度	契約年月日	契約年月日
(2210-79-9)	試験期間 19.11.7~20.3.6	試験期間	試験期間
構造式(示性式)・物理化学的性状	試験装置 (標)・揮	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
 <p>分子式 C<sub>10</sub>H<sub>12</sub>O<sub>2</sub> 分子量 164.20</p>	試験濃度 100 mg/L	試験濃度 mg/L	試験濃度 mg/L
	被験物質 汚泥 30 mg/L	被験物質 汚泥 mg/L	被験物質 汚泥 mg/L
純度*1 92.4%	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 7.6%は不明	試験結果	試験結果	試験結果
融点 測定不可(融点は-100~25℃に存在しない)	間接	間接	間接
沸点 測定不可(210℃以上で変化)	試験結果	試験結果	試験結果
蒸気圧 8.15×10 <sup>-1</sup> Pa(20℃)	BOD -3, -3, -2 (0)%		
密度	TOC 2, 3, 1 (2)%		
LD50	HPLC 91, 91, 90 (90)%		
IRチャートの有無 (有)・無	審査部会 第77回	審査部会 第 回	審査部会 第 回
用途*2 合成樹脂、脱水剤、乾燥剤	20年 7月25日開催	年月日開催	年月日開催
生産量*2 (16年) 製造及び輸入 10,000~100,000 t未満	判定	判定	判定
試料 購入先 Aldrich Chemical	備考		
経済産業公報発表年月日	1. 回収率* (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 100% ※試験液を直接分析機器に導入。		
	2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構		
	3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。		
	<p>・被験物質は試験液中で加水分解し、被験物質の残留率は9~10%で、3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオール(局方, log Kow = 1.41*3)が生成し、(汚泥+被験物質)系で78~82%残留した。(汚泥+被験物質)系では構造不明の変化物Aが2%生成し、残留した。また、HPLCクロマトグラム上の保持時間は被験物質、変化物A及び3-(2-メチルフェノキシ)-1,2-プロパンジオールは各々、5.3、4.7及び2.5分であることから、被験物質の極性が最も低い。</p> 		

\*1 Aldrich Chemical 添付資料による。 \*2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。 \*3 Kowwin v 1.67 による計算値。

濃縮度試験	事業対象年度	平成19年度	濃縮度試験契約	年月日	毒性試験
試験期間	19. 9. 20 ~ 19. 11. 1	試験期間	年月日	年月日	年月日
試験装置	標・揮 LC50値 mg/L( hr)魚種( )	試験装置	標・揮 LC50値 mg/L( hr)魚種( )	依	類
水槽設定濃度 ( )	被験物質	水槽設定濃度 ( )	被験物質	経過	
第1濃度区	分散剤	第1濃度区	分散剤		
第2濃度区		第2濃度区			
第3濃度区		第3濃度区			
濃縮倍率	開始前 脂質含有率 % 魚種( )	濃縮倍率	開始前 脂質含有率 % 魚種( )		
第1	日後 日後 日後 日後	第1	日後 日後 日後 日後		
第2	水槽濃度 ( )	第2	水槽濃度 ( )		
第3	倍率	第3	倍率		
審査部会	第77回	審査部会	第77回	年月日	開催
判定結果		判定結果			
備考		備考			

分配係数から類推

[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構

K-1827の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (Log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮 倍率	濃縮 判定 (年)
[(2-メチルフェニル)メチル]オキシラン (2210-79-9)		3-0574 (K-1827)	標準(4W) 2008年実施 BOD -3, -3, -2 (0)*1 TOC 2, 3, 1 (2) HPLC 91, 91, 90 (90)		2007年実施 2.28 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	
フェニルグリシジル エーテル (122-60-1)		3-0559 (K-551)	標準(4W) 1982年実施 BOD 18, 33, 20 (24) TOC 19, 35, 20 (25) HPLC 93, 94, 92 (93)  逆転(4W) 1982年実施 BOD 58, 33, 62 (51) TOC 66, 18, 68 (51) HPLC 98, 97, 98 (97)	保留 (1982)  良分解性 (1982)				
p-sec-ブチル フェニルグリシジル エーテル (67557-76-0)		3-0575 (K-795)	標準(4W) 1986年実施 BOD 0, 0, 0 (0) TOC 0, 0, 0 (0) GC 77, 78, 77 (77)  [p-sec-ブチルフェニル- 2,3-ジヒドロキシプロピル エーテルを生成し、残留した。]	難分解性 (1986)	3.56*2		変化物から類推	高濃縮性 ではない (1986)
p-sec-ブチル フェニル-2,3-ジ ヒドロキシプロピル エーテル (-)		(K-795 変化物)			1986年実施 2.71 (フラスコ振とう法)	40.2 (48hr)	1986年実施 1区(200µg/L): 4.7~6.5 2区(20µg/L): <1.7~6.8 脂質含有率 4.2%	高濃縮性 ではない (1986)

\*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 \*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

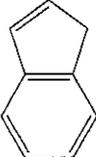
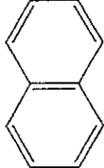
整理番号 K-1828 (4-0580)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
1#インデン	事業対象年度 平成19年度	契約 年月日	契約 年月日
(95-13-6)	試験期間 19.10.23~20.2.6	試験期間	試験期間
構造式 (示性式) ・物理化学的性状	試験装置 標・(揮)	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
	試験濃度	試験濃度	試験濃度
 分子式 C <sub>9</sub> H <sub>8</sub> 分子量 116.16	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
純度*1 96.2% (GC)	本試験期間 4週間	本試験期間	本試験期間
	外観 ごくうすい黄色透明液体	間接	間接
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 3.8%は不明	BOD -6, -6, -4 (0)	試験結果	試験結果
	溶解度 (対水, その他) 対水 213mg/L(20°C) 対酢酸エチル 10g/L以上 対アセトニトリル 10g/L以上	間接	間接
融点 -8.1°C	HPLC 0, 1, 1 (1)	試験結果	試験結果
沸点 185.7°C	審査部会 第77回	審査部会	審査部会
蒸気圧 2.29×10 <sup>2</sup> Pa(25°C)	20年 7月25日開催	年月日開催	年月日開催
密度*1 0.993g/mL(20°C)	判定	判定	判定
LD50	備考	備考	備考
IRチャートの有無 (有) ・ 無	1. 回収率 (水+被験物質)系 94.0% (汚泥+被験物質)系 94.5%		
用途	2. 実施機関 ・ 財団法人 化学物質評価研究機構		
生産量*2 (16年) 未公表	3. 特記事項 ・ 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 ・ 被験物質は揮発性物質であったため、TOC分析は実施しなかった。		
試料 購入先 和光純薬工業			
経済産業公報発表年月日			

\*1 和光純薬工業添付資料による。

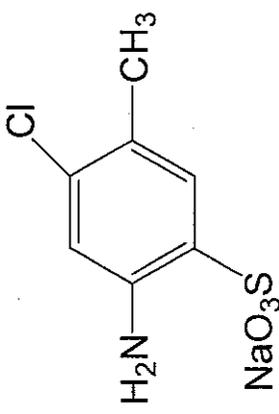
\*2 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。



K-1828の類似物質表

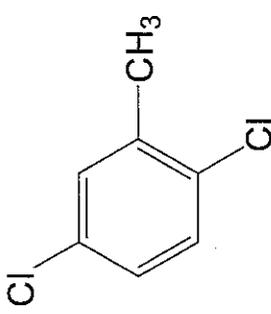
化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (Log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮 倍率	濃縮 判定 (年)
1#-インデン (95-13-6)		4-0580 (K-1828)	標準(4W)2008年実施 BOD -6, -6, -4 (0)*1 HPLC 0, 1, 1 (1)		2007年実施 3.02 (フラスコ振とう法)		分配係数から類推	
3a, 1, 7, 7a-テトラヒ ドロ-1#-インデン (3048-65-5)		4-0581 (K-832)	標準(4W)1996年実施 BOD 0, 0, 0 (0) GC 2, 0, 3 (2)	難分解性 (1996)	1997年実施 3.83 (フラスコ振とう法)	>26.0 (48hr)	1998年実施 1区(100µg/L): 102~285 2区(10µg/L): 160~335 脂質含有率 3.6%	高濃縮性 ではない (1998)
ナフタレン (91-20-3)		4-0311 (K-58)	標準(2W)1977年実施 BOD 0, 0 (0) GC 0, 0 (0) 逆転(4W)1977年実施 BOD 0, 7 (3) GC 0, 0 (0)	保留 (1977)  難分解性 (1982)	3.17*2	9.0 (48hr)	1979年実施 1区(150µg/L): 37~168 2区(15µg/L): 23~146 脂質含有率 --	高濃縮性 ではない (1979)

\*1 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。 \*2 Kowwin v 1.67 による計算値。

整理番号 K-143B (3-2024)	事業対象年度 平成18年度	分解度試験	事業対象年度 平成18年度	分解度試験	契約 年月日
4-アミノ-2-クロロトルエン-5-スルホン酸ナトリウム (6627-59-4)	試験期間 18.12.26~19.5.17	試験装置 (標) ・ 揮	試験期間	試験装置	試験期間
構造式 (示性式) ・ 物理化学的性状	試験濃度	試験濃度	試験濃度	試験濃度	試験濃度
 <p>分子式 <math>C_7H_7ClNaO_3S</math> 分子量 243.65</p>	被験物質 100 mg/L	被験物質 100 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 30 mg/L	汚泥 30 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
純度 99.9%	本試験期間 4週間	本試験期間	本試験期間	本試験期間	本試験期間
外観 白色結晶性粉末	試験結果	試験結果	試験結果	試験結果	試験結果
不純物 (物質名, 含有率)	BOD 0, 0, 2 (1)%				
溶解度 (対水, その他)	DOC -1, 1, 0 (0)%				
対水 >100 mg/L	HPLC -2, -1, -1 (0)%				
融点 -	審査部会 第68回				
沸点 -	19年10月26日開催	19年10月26日開催	19年10月26日開催	19年10月26日開催	19年10月26日開催
密度 -	判定	判定	判定	判定	判定
LD50 -	備考	備考	備考	備考	備考
チャーターの有無 (有) ・ 無	1.回収率 (汚泥+被験物質)系 100%				
用途*1 添加剤 (塗料、顔料)	2.実施機関 三菱化学安全科学研究所 株式会社				
生産量*1 (16年) 製造及び輸入 100~1,000 t 未満					
試料 和光純薬工業株式会社					
経済産業公報発表年月日					

\*1 化学物質の製造・輸入量に関する実態調査による。

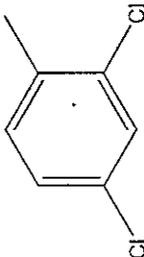
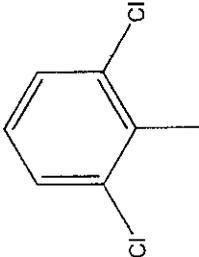


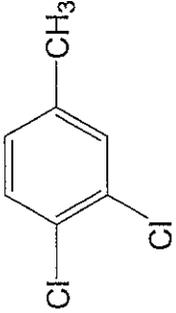
整理番号 K-1201C (3-0078)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
2,5-ジクロロトルエン (19398-61-9)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 19. 1. 17~19. 5. 17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 標・(揮)	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状	試験濃度	試験濃度	試験濃度
 <p>分子式 C<sub>7</sub>H<sub>6</sub>Cl<sub>2</sub> 分子量 161.03</p>	被験物質 4.17 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 50 μL/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
純度 86.5%*1 98%以上(GC)*2	本試験期間 4 週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
外觀 僅微黄色透明液体*1 無色透明液体*2	試験結果	試験結果	試験結果
不純物(物質名,含有率) 2,4-ジクロロトルエン: 9.9%*1 2,6-ジクロロトルエン: 2.5%*1 2,3-ジクロロトルエン: 1.2%*1	間接	間接	間接
融点 4~5°C*1	直接	直接	直接
沸点 197~200°C*1 199°C*2	審査部会 第68回	審査部会 第 回	審査部会 第 回
密度	19年10月26日開催	年 月 日開催	年 月 日開催
LD50	判定	判定	判定
チャートの有無 (有)・無	備考	備考	備考
用途	1.回収率 (水+被験物質)系 103% (汚泥+被験物質)系 99%		
生産量(年)	2.実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所		
試料 和光純薬工業株式会社*1 東京化成工業株式会社*2			
経済産業公報発表年月日 年 月 日			

\*1 分解度試験サンプル, \*2 濃縮度試験サンプル, \*3 株式会社三菱化学安全科学研究所測定値



K-1201C類似物質表

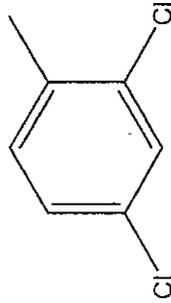
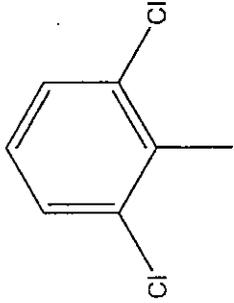
化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (Log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮 倍率	濃縮 判定 (年)
2,4-ジクロロ トルエン (95-73-8)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1995)	/	4.03 (48hr)	1区(20µg/L): 606~858 2区(2µg/L): 639~939 脂質含有率 4.4%	低濃縮性 (1995)
2,6-ジクロロ トルエン (118-69-4)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1996)	/	5.57 (48hr)	1区(20µg/L): 379~567 2区(2µg/L): 246~828 脂質含有率 3.9%	低濃縮性 (1996)

整理番号 K-1201D (3-0078)	分解度試験	分解度試験	分解度試験
3,4-ジクロロトルエン (95-75-0)	事業対象年度 平成18年度	事業対象年度 平成 年度	契約 年 月 日
	試験期間 19. 1. 17~19. 5. 17	試験期間 . . . ~ . . .	試験期間 . . . ~ . . .
	試験装置 標・(揮)	試験装置 標・揮	試験装置 標・揮
構造式(示性式)・物理化学的性状	試験濃度	試験濃度	試験濃度
 <p>分子式 C<sub>7</sub>H<sub>6</sub>Cl<sub>2</sub> 分子量 161.03</p>	被験物質 4.17 mg/L	被験物質 mg/L	被験物質 mg/L
	汚泥 50 μL/L	汚泥 mg/L	汚泥 mg/L
純度 99.9%*1 95%以上(GC)*2	本試験期間 4週間	本試験期間 週間	本試験期間 週間
外観 無色透明液体	試験結果	試験結果	試験結果
溶解度(対水, その他) 対水 36mg/L*3	BOD 0, 0 (0)%	間接	間接
融点 -	GC -3, 1 (1)%	直接	直接
沸点 205℃	審査部会 第68回	審査部会 第 回	審査部会 第 回
密度	19年10月26日開催	年 月 日開催	年 月 日開催
LD50	判定	判定	判定
チャートの有無 (有)・無	備考	備考	備考
用途	1. 回収率 (水+被験物質)系 100% (汚泥+被験物質)系 103%		
生産量(年)	2. 実施機関 株式会社 三菱化学安全科学研究所		
試料 東京化成工業株式会社			
経済産業公報発表年月日 月 日			

\*1 分解度試験サンプル, \*2 濃縮度試験サンプル, \*3 株式会社三菱化学安全科学研究所測定値



K-1201Dの類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (Log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮 倍率	濃縮 判定 (年)
2,4-ジクロロ トルエン (95-73-8)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1995)	/	4.03 (48hr)	1区(20µg/L): 606~858 2区(2µg/L): 639~939 脂質含有率 4.4%	低濃縮性 (1995)
2,6-ジクロロ トルエン (118-69-4)		3-78	標準(4W) BOD 0 GC 0	難分解性 (1996)	/	5.57 (48hr)	1区(20µg/L): 379~567 2区(2µg/L): 246~828 脂質含有率 3.9%	低濃縮性 (1996)

整理番号 K-1760 (NEDO 335, 3-0540)	分解度試験	分解度試験	分解度試験																		
2, 6-ジ-tert-ブチル-4-sec-ブチルフェノール (17540-75-9)	事業対象年度 平成17年度 試験期間 17. 8. 3~18. 2.14 試験装置 (株)・揮	契約 年月日 試験期間 . . . ~ . . . 試験装置 標・揮	契約 年月日 試験期間 . . . ~ . . . 試験装置 標・揮																		
構造式 (示性式)・物理化学的性状	試験濃度 被験物質 100 mg/L 汚泥 30 mg/L 本試験期間 4 週間	試験濃度 被験物質 mg/L 汚泥 mg/L 本試験期間 週間	試験濃度 被験物質 mg/L 汚泥 mg/L 本試験期間 週間																		
分子式 C <sub>18</sub> H <sub>30</sub> O 分子量 262.43	試験結果 間接 BOD -1, -1, -1 (0)% 直接 HPLC 3, 2, 1 (2)%	試験結果 間接 直接	試験結果 間接 直接																		
純度*1 96.4%	外観*1 白色固体	審査部会 第56回 18年 7月21日開催	審査部会 第 回 年 月 日開催																		
不純物*1 (物質名, 含有率) 残り 3.6%は不明	溶解度 (対水, その他) 対水 547µg/L(フラスコ法、25°C) 対テトラヒドロフラン 10 g/L以上 対アセトニトリル 10 g/L以上 対クロロホルム 10 g/L以上	判定 難分解性	判定																		
融点*2 25°C	1-オクタノール/水分分配係数 log Kow = 6.43*3	備考	備考																		
沸点*2 141~142°C (10mmHg)	安定性	1. 回収率 (水+被験物質)系 95.1% (汚泥+被験物質)系 95.8%	被験物質残留率 (%) <table border="1"> <tr> <td>試験液</td> <td>γ-ブタ</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>水系</td> <td>0</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>汚泥系</td> <td>0</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>-1</td> <td>1</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>-2</td> <td>0</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>-3</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	試験液	γ-ブタ	合計	水系	0	90	汚泥系	0	88	-1	1	90	-2	0	89	-3		
試験液	γ-ブタ	合計																			
水系	0	90																			
汚泥系	0	88																			
-1	1	90																			
-2	0	89																			
-3																					
密度*2 0.902 g/cm <sup>3</sup> (25°C)	用途	2. 実施機関 ・財団法人 化学物質評価研究機構	・被験物質は一部変化し、不明変 化物を生成して残留する。また、 被験物質の一部はソーダライム に吸着した。																		
LD <sub>50</sub>	生産量 (年)	3. 特記事項 ・分解度の平均値が負の値に算出 されたため、0と表記した。																			
IRチャートの有無 (有)・無	試料 購入先 Aldrich Chemical																				
用途	経済産業公報発表年月日																				

\*1 Aldrich Chemical 添付資料による。 \*2 Sigma-Aldrich Material Safety Data Sheets (Version 1.2)による。 \*3 Kowwin v 1.67 による計算値。

濃縮度試験	事業対象年度	平成19年度	濃縮度試験	年月日	毒性試験
試験期間	19.12.21 ~ 20.3.31	試験期間	年月日	依	年月日
試験装置	標・揮 LC50値 3.64 mg/L(96hr)魚種(ヒメダカ)	試験装置	標・揮 LC50値	頼	
水槽設定濃度 (µg/L)		水槽設定濃度 ( )			
被験物質	分散剤	被験物質	分散剤		
	HCO-40				
	ホルムアミド				
第1濃度区	10	50	20000		
第2濃度区	1	5	20000		
第3濃度区					
濃縮倍率	脂質含有率	開始前	終了後	開始前	終了後
		4.16%	魚種(コイ)	%	%
		5.34%			
水槽濃度 (µg/L)	13日後	26日後	39日後	49日後	60日後
第1	8.92	8.66	8.39	8.63	8.63
倍率	14000	22000	26000	31000	35000
	15000	22000	27000	32000	38000
水槽濃度 (µg/L)	0.882	0.865	0.824	0.864	0.878
第2	16000	24000	26000	33000	37000
倍率	14000	22000	29000	33000	40000
水槽濃度 ( )					
第3					
倍率					
審査部会	第77回	20年	7月	25日	開催
審査部会	第77回	20年	7月	25日	開催
判定結果	判定結果				
備考	備考				
	<p>[定常状態における濃縮倍率] 第1濃度区 32000倍 第2濃度区 33000倍</p> <p>[回収率] 83.5% 試験水 第1濃度区 0.73 µg/L 第2濃度区 0.073 µg/L</p> <p>供試魚 82.4% 供試魚 530ng/g</p> <p>[実施機関] 財団法人 化学物質評価研究機構</p>				

部位別試験(濃縮倍率)

第1濃度区  
外皮 28000, 21000  
頭部 40000, 38000  
内臓 84000, 89000  
可食部 19000, 18000

第2濃度区  
外皮 31000, 30000  
頭部 46000, 45000  
内臓 110000, 100000  
可食部 21000, 16000

排泄試験(半減期)

第1濃度区 17日  
第2濃度区 15日

経過

K-1760の類似物質表

化合物名 (CAS番号)	構造式	官報公示 整理番号 (K-番号)	分解度 (%)	分解 判定 (年)	分配係数 (log Pow)	LC50 mg/L (ヒメダカ)	濃縮倍率	濃縮 判定 (年)
6-tert-ブチル- 2,4-キシレンオール (1879-09-0)		3-0540 (K-1228)	標準(4W) 1995年実施 BOD 4, 3, 5 (4) GC 0, 4, 0 (1)	難分解性 (1995)	1995年実施 4.08	6.58 (48hr)	1995年実施 1区(20µg/L): 107~213 2区(2µg/L): 58~263 脂質含有率 3.9%	高濃縮性 ではない (1995)
2,6-ジ-tert- ブチル-p-クレゾール (128-37-0)		3-0540 9-1805 (K-80)	標準(2W) 1975年実施 BOD 0, 0 (0) GC 10, 21 (16) UV(280nm) 11, 30 (20) 逆転(4W) 1977年実施 BOD 22, 34 (28) GC 47, 68 (58) 1978年実施 被験物質 50 mg/L (4W) 汚泥 50 mg/L (4W) BOD 5, 4 (5) GC 5, 0 (3)	難分解性 (1975) 再試験 指示 (1977) 難分解性 (1978)	5.03*1	5.9 (48hr)	I. 1976年実施 1区(500µg/L): 500~5000 2区(50µg/L): 1000~3100 脂質含有率 - II. 1979年実施 1区(500µg/L): 220~2800 2区(50µg/L): 230~2500 3区(5µg/L): 330~1800 脂質含有率 -	高濃縮性 (1976)   中濃縮性 (1979)
2,6-ジ-tert- ブチル-4-エチル フェノール (1130-12-1)		3-0540 (K-1031)	標準(4W) 1989年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 31, 17, 13 (20) [一部ソーダライムに吸着した] (参考データ, ソーダライムなし) HPLC 1, 2 (2)	難分解性 (1989)	1990年実施 >3.27	7.26 (48hr)	1990年実施 1区(10µg/L): 1420~5060 2区(1µg/L): 930~4870 脂質含有率 3.7%	高濃縮性 ではない (1990)
2,4,6-トリ- tert-ブチルフェ ノール (732-26-3)		3-0540 (K-555)	標準(4W) 1981年実施 BOD 0, 0, 0 (0) HPLC 1, 9, 5 (5)	難分解性 (1981)	1982年実施 6.06	128 (48hr)	1982年実施 1区(10µg/L): 4830~16000 2区(1µg/L): 4320~23200 脂質含有率 4.5%	高濃縮性 (1982)
2,6-ジ-tert- ブチル-4-sec- ブチルフェノール (17540-75-9)		3-0540 (K-1760)	標準(4W) 2005年実施 BOD -1, -1, -1 (0) *2 HPLC 3, 2, 1 (2) [被験物質は一部変化し、不明変化物を生成して残留する。また、被験物質の一部はソーダライムに吸着した。]	難分解性 (2006)	6.43*1	3.64 (98hr)	2008年実施 定常状態における濃縮倍率 1区(10µg/L): 32000 2区(1µg/L): 33000 脂質含有率 開始前 4.16% 終了後 5.34%	

\*1 Kowwin v 1.67による計算値。 \*2 分解度の平均値が負の値に算出されたため、0と表記した。